



— バーチャルリアリティ体験 —

空中茶室VR

制作記念webイベント

2月1日 OPEN

期間限定Webサイト

公開期間 2021年2月1日(月)～3月31日(水)

京都・八幡市 石清水八幡宮の山の中に
 かつてあった茶室「閑雲軒」。
 崖にせり出すその姿は、まるで雲に浮かぶ「空中茶室」。
 それは常識にとらわれない、驚きをもった「おもてなし」
 八幡で生まれた茶文化の形を、時間を超えて体験し、
 そして、次の世代に伝えたい—
 現在に生きる私達の願いです。

— 以下コンテンツを順次公開していきます! —

3月 公開予定

空中茶室「閑雲軒」 体験VR



眼下に絶景を望みながら縁を歩き、にじり口から茶室へと招かれる、空中茶室「閑雲軒」をVR体験できます!

※イベント終了後も、松花堂庭園・美術館の公式YouTubeチャンネルにて閲覧が可能です。

2月下旬 公開予定

映画「空中茶室を夢みた男」 ダイジェスト版



石清水八幡宮の美しい風景などを織り込みながら、資料や識者の証言を紡ぐ映画「空中茶室を夢みた男」(令和元年公開)のダイジェスト版を今だけ特別公開します!

2月1日 オープン

京都・八幡市 空中茶室「閑雲軒」とは



約400年前、石清水八幡宮の山腹にあった「閑雲軒」。平成22年の発掘調査で、世にも珍しい茶室だったことがわかりました。そのストーリーを紹介します!

期間限定Webサイトはこちら

お問い合わせ先

八幡市環境経済部商工観光課

〒614-8501 京都府八幡市八幡園内75

TEL.075-983-2859 FAX.075-982-7988



<https://kan-un-ken.jp/>

■ 「空中茶室VR」について



(八幡市教育委員会 作成)

■ 茶室「閑雲軒」

江戸時代以前、「神仏習合」の宮寺であった石清水八幡宮には、その山内に僧侶が住むたくさんの坊がありました。そのひとつ「瀧本坊」の住職で、「寛永の三筆」のひとりであり、当代きっての文化人・松花堂昭乗が建てたのが、茶室「閑雲軒」でした。

発掘調査で明らかになった「懸け造り」の茶室を、空中に浮かぶようなその姿から「空中茶室」と呼んでいます。

■ VR動画について

空中茶室は昭乗と小堀遠州の2人の文化人の出会いから生まれた、驚くべきおもてなしの姿ともいえます。これを後世に伝えるため、当時閑雲軒を訪ねた人々の追体験ができるバーチャルリアリティー (VR) 映像を制作しました。ゴーグルを通してより臨場感を味わうことができます。

■ 閑雲軒ゆかりの地 ～ ロケ地紹介 ～

松花堂庭園・美術館

松花堂昭乗が隠居後に移り住んだ草庵・松花堂(府指定建造物)と泉坊の書院を移築し、昭乗の庭とともに忠実に再構成したのが、松花堂庭園の内園(国指定名勝)です。のちに外園に作られた茶室「松隠」には、「閑雲軒」を再現した四畳台目の小間があり、VR撮影はここで行いました。貴重な掛け軸やお茶碗にもご注目ください。庭園には他に千宗旦好みの「梅隠」、琵琶床が特徴的な「竹隠」もあり、四季折々の美しい趣が味わえます。

美術館や、京都吉兆松花堂店も併設されています。

※内園は、大阪北部地震の復旧工事のため、現在ご覧いただくことができません。

〒614-8077 京都府八幡市八幡女郎花43番地の1
TEL.075-981-0010 FAX.075-981-0009
<https://shokado-garden-art-museum.jp/>



松花堂庭園 外園

VR撮影風景

石清水八幡宮

「やわたのはちまんさん」と呼ばれ親しまれている石清水八幡宮。創建以来、千年以上の長きにわたり京都盆地の入り口に当たる男山で、京の都を守護してきました。国宝の社殿は現存する八幡造りのなかで最古最大、山全体が国史跡です。

明治初年に神仏分離令が出されるまで、山内には宿坊が数多くあり、「瀧本坊」は中腹に今もある石清水社の向かいにありました。映画「空中茶室を夢見た男」はこの跡地と、閑雲軒からの景色と似た景観が楽しめる男山展望台などで撮影されています。VRで眼下に広がる景色はドローンで撮影したものです。

〒614-8588 京都府八幡市八幡高坊30
TEL.075-981-3001 FAX.075-981-9808
<http://iwashimizu.or.jp>



石清水八幡宮 社殿

石清水社

